

## 出雲梅

へ実に名にし負ふ津の国の梅のなにはの故事は 木花咲耶姫神  
のいろに出雲の結び文 その仮名書のかずくを へまづ初春  
はさきがけの 恋と云ふ字も白梅に 振りの袂の手まり唄 ひと  
夜にニ夕夜逢う社 へ三筋もあせに青梅の しづくに濡れし手枕  
は さめて嬉しき袖の梅 へ八朔梅や雪の梅 まだ解けかぬる海  
苔の名は 十六しまの矢の字帯 笹鳴き初むるうぐひすの 春鶯  
囀の舞の曲 へ池のみぎわの亀の背に 亀の遊ぶやぬるみ川 末  
白浪を結び合ふ 柏の若葉むらさきの 雲井に高き梅が香も 四  
季の香りぞ目出度けれ